

民間だけでは限界...「多様性を認める環境」を作るには



[画像の拡大](#)

小口さんは、その現状の中で、ダウン症の子どもを持つ親の会「あすなろ会」を作り、自らのクリニックが協力して支援する取り組みをしています。そして、ダウン症を含めた難病の子どもがいる家族と、全国各地でサマーキャンプをするなどの活動も続けています。

現在は、全国の難病の子どもや家族がゆっくりと過ごすための常設キャンプ場「あおぞら共和国」(山梨県北杜市白洲町)の建設や運営を積極的に支援するなど、彼の活動は広がりをみせています。

なお、このプロジェクトを進める認定NPO法人「[難病のこども支援全国ネットワーク](#)」の[ホームページ](#)を見ると、あおぞら共和国はすでに一部で利用が始まり、様々なイベントも企画されているようです。

こうした民間の取り組みはとても大切です。しかし、やはり国がその気にならなければ、全国的な形で、永続的な対応にしていけることはなかなか難しいのではないのでしょうか。

そして何よりも、小学校などの初等教育の段階で多様性を認める環境が定着しなければ、ダウン症を含む障害児が生きがいを享受することは難しいでしょう。(若倉雅登 井上眼科病院名誉院長)